

## 聖餐礼拝説教要旨 【2012年3月4日】

### 「あ ら ゆ る 喜 び と 平 安」

詩 篇 第117篇1節～2節  
ローマ人への手紙 第15章7節～13節

説 教 岡村 恒牧師

「どうか恵みの神があなた方を望みにあふれさせて下さいますように」。ローマ人への手紙は、神が、私たちに望みを注ぎ入れ、あふれさせて下さると言います。私たちがどこかから希望を獲得するではありません。〈恵みの神〉と呼ばれるお方が聖霊によって、私たちに満たして下さるのです。

ローマにある教会、又、初代教会の中心にいたのはユダヤ人たちでした。この民族は神との契約関係を持っていた人々です。彼らは律法や預言書を繰り返し読んで、神の思いを直ぐに思い浮かべて歩んできたのです。

しかし、現実には教会の中には、宗教的な価値観の違いなどによって分裂がありました。聖書は、私たちが互いに受け入れ合って生き、神の光り輝く栄光に満たされるようになる、と語ります。そして、神の約束を信じる者を救う為に、主イエス・キリストが僕になって、割礼ある者(ユダヤ人)の一番低い所にまで来て下さったと言うのです。主イエス・キリストが最も小さな者として生まれた目的は、神の真実を明らかにする為でした。この方による以外は、神との深い交わりは回復できないのです。誰でも洗礼を受けられる時、この神の真実を知るのです。

私たちに、割礼とか詩篇の第117篇はあまり馴染みの無いものかも知れません。しかし、ここで言われている割礼の無い者とは、実は、私たちの事です。神の祝福とは無縁な者のことです。私たち人間は、神のお造りになった世界を滅ぼしてしまう存在です。神が「生めよ、ふえよ」と祝福して下さったのに、私たち人間は神を神としない歩みをし、自然を破壊し、人間関係を破壊しています。

神はアブラムを選びました。やがて、モーセの時代に十戒を与えて祝福なさいました。こうして人間は神との契約を結んで歩み始めました。神の祝福を頂き、確かな約束を信じて生き始めたのです。

神は、世界中の多くの人の中からユダヤ人を選んで、他の民とは区別をされました。この事はとても理不尽な事です。しかし、神はいつでも“思いがけない”仕方で御業をなさいます。神のなさる事はいつも私たちの理解を遙かに超えているのです。

神に選ばれた民ユダヤ人は、多くの苦しみを受けた民でもあります。自分たちが神によって

選ばれた事を信じて生きてきました。聖書を開くと、ダビデが、異邦人のただ中で、主を讃美しています。申命記の最後にも「異邦人よ、喜べ」とあり、詩篇の第117篇にも「全ての異邦人よ、ほめたたえよ」とあるのです。そしてさらに、「エッセイの根より出た彼によって望みを得る」と記されています。苦しみのまっただ中で、神の約束を信じて、ユダヤ人から始まって全ての異邦人に、今ここにいる私たちに、救いが来る、新しい希望の時が来る、と聖書は語っています。そしてついに、その「時が来た」のです。

ユダヤ人は何度赦されても、繰り返し神以外のものに顔を向けて来ました。神に愛されていることを知りながら、何度も何度も失敗を重ねました。私たち自身も同じ姿をしています。神に喜ばれるような歩みを少しもできずにいます。その私たちのために、救いの時が来たのです。だからこそ、私たちはこの受難週の40日間、神のひとり子なる主イエス・キリストが味わって下さったお苦しみに目を向けます。どうしても神に従うことができない私たちの為に、ひとりの赤ちゃんとなってこの世に来て下さった主キリストに目を向けるのです。

冬が去り、春が来ると芽が出ます。そこに生命があふれ始めます。芽が出て茎が伸び、やがて花が咲きます。ダビデの末裔から救い主が生まれるという出来事が、主イエスにおいて実現しました。全ての人々を救う為に、主は来て下さり、私たちを「我が友よ」と呼んで下さいました。そして、私たちに代わって死の絶望まで味わい尽くして下さったのです。主が私たちを救い、祝福をし、生命を与え、希望をあふれさせて下さいます。私たちの罪に満ちた生活、欠けだらけの祈りや言葉も、病いの時も、死に行く時さえも、確かに主が私たちを支えて下さるのです。ここに希望があります。この事実が神の約束の確かさ、神の栄光を明らかにしています。

神は、かつてユダヤ人を選び、私たちを選び取って導いて下さいました。主イエスこそ、奪い取られることのない希望を与えて下さるお方です。受難節に悔い改めつつ、神の希望を仰ぎ見つつ歩もうではありませんか。神の御子の十字架上の苦しみ、復活、そして、聖霊による希望にあふれて歩みたいと願います。

(記 説教要約奉仕者)